



『常識を破り、プライドを貫く。』を読んで



“患者さんに考えてもらう。”
その大切さを改めて実感！



久城真美さん / 臨床歴19年
医療法人社団 宝樹会 椿デンタルオフィス(神奈川県)

Goodbye Perioの活動をしていたとき、中年の男性にこんなふう言われたことがあります。
「僕らみたいに普通の仕事をしている一般人は、あなたたちと違って歯のことを四六時中考えてるわけじゃないんだよ」

この方のおっしゃること、本当にその通りですよね。歯科のことを勉強すればするほど、「予防の大切さや方法を教えてあげたい！教えなければ！」という気持ちがつい前面に出てしまいがちです。私自身若い頃、指導することだけに夢中になってしまったことも……。だけど、それでは相手の気持ちはついてこない。自分のお口を自分の手で守っていく、という行動につながらないんです。この男性も含めいろいろな患者さんと出会うなか、一方通行のコミュニケーションではダメなんだと気づかされました。今は常に「この人に対して、私はどんなきっかけを与えられるのかな？」「どうしたら歯のことに関心を持ってもらえるのかな？」と考えるよう心がけています。

だからこそ、『常識を破り、プライドを貫く』を読んだときに一番感じたのは「共感」でした。とくに第3章の「自分の過去・現在・未来について考えてもらう」という言葉や、「口腔内の健康がいかに重要かを考え、気づいてもらう」という言葉。そして、歯ではなく人を見る。この大切さについても！**結局、歯の大切さに気づいてもらうきっかけは、その人のことをまるごと知って初めて見つけられるからです。**私が目頃から思っていたことを、バークレー先生が全部言葉にまとめてくれた、という感じがしました。私の理想は、ただ歯科医院にいる歯科衛生士としてではなく、久城真美という人間として目の前の人ひとりに関わること。この本を読んで、たとえ歯科医院を離れたところであっても、必要なときにはいつでも思い出し、頼ってもらえる存在でいたいなと改めて思いました。



書籍 『常識を破り、プライドを貫く。』
一患者が求める真の歯科医療を追求した
予防歯科のレジェンドー』
詳しくは、同封のチラシをご覧ください！